

## 『都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育』

東京女子医科大学・杏林大学・帝京大学・駒澤大学



ニュースレター 平成27年度4号

### がんプロ看護担当教員からのあいさつ

#### 都市型がん医療連携を担う看護師とは



東京女子医科大学  
看護学部  
成人看護学教授  
飯岡 由紀子

がん医療は、治療の発展とともに、高度化・複雑化してきました。がん医療を担う看護職においても、高い専門性が求められています。東京女子医科大学看護学部では、がん看護専門看護師コース（38単位）を設け、がん看護の専門的知識・技術を基盤とした高度な実践を提供できる人材の育成に取り組んでいます。また、専門看護師が担う6つの役割（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究）を遂行するうえで重要となるコンピテンシーの向上を目指しています。

2人に1人はがんに罹患する時代となり、「がんとともに生きる」という病とのつきあい方もあります。がんと療養生活を支援する看護は、より重要性が高まってきていると考えます。病態、エビデンス、価値観、人間関係など、病をもつ人をトータルにとらえ、その人にとって最適となる生活を支援するのが看護です。看護の専門性は見えにくいといわれますが、扇の要のようにチーム医療を推進する重要な役割を担っているとも考えています。

都市部におけるがん医療の特徴には、高齢化が急速に進行すること、がん患者の若年化により社会的課題をもった患者が増加していること、錯綜する情報に混乱しやすいこと、地域連携がとりにくく脆弱であることなどが言われています。このような状況をふまえ、「都市型がん医療連携を担う看護師」にはどのような能力が求められるのか、常に問いかけながら教育に携わっています。

#### 杏林大学保健学研究科の取り組み

杏林大学保健学研究科では「がん看護専門看護師養成コース（大学院）」「がん患者コーディネーター養成コース（インテンシブコース）」の2コースを設置しております。

「がん看護専門看護師養成コース（大学院）」では高度実践看護師育成に向け、既存の養成コース教育課程にフィジカルアセスメント、病態学、薬学などの科目を設け教育の充実を図っております。また、地域におけるがん患者に対応すべく、がん薬物療法、在宅での緩和ケアについて科目を加え、講義・演習・実習を行っています。特に実習では実践力強化を目指し専門看護師による指導が受けられるプログラムを組んでおります。また、「がん患者コーディネーター養成コース（インテンシブコース）」においては、臨床経験5年以上の看護師を対象に、がん患者のQOL維持・向上の視点に立ち、様々なニーズに対応できるコーディネーターを目指し、短期間で集中的に専門領域を学べるようプログラムを組みました。特に症状緩和の技術演習として、リンパ浮腫緩和に対するリンパマッサージの技術演習やコーディネーションスキルを学ぶための体験学習は受講生同士が協力し合い、与えられた課題をこなしていく有意義なものとなっています。

次年度は、『都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育』のがんプロ事業、最終年ということもあり、より一層充実した講義、演習、講演会を行いますので、多くの大学院生、看護師の参加をお待ちしております。



杏林大学大学院  
保健学研究科  
成人看護学教授  
中島 恵美子

# 平成27年度連携4大学合同市民公開シンポジウムの報告

駒澤大学大学院 医療健康科学研究科 吉川 宏起

**がんってどんな病気か知ってる?**  
子ども達に知ってほしい“がん”のこと

【日時】2015年12月20日(日) 14:00~16:00 (開場13:30) **参加無料 申込不要**

【場所】駒澤大学 記念講堂  
〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1 駒沢キャンパス

【対象】小学校高学年・中学生・ご家族のみならず 他一般の方

司会 江口 研二(帝京大学医学部難治疾患支援学講座 特任教授)  
田中 美恵子(東京女子医科大学看護学部精神看護学 教授)

オープニングリマーク 廣瀬 良弘(駒澤大学 学長)

●「がんって…なに?」 渡邊 清高(帝京大学医学部内科学講座(腫瘍内科) 准教授)

●がんの実態を知る 14:15~  
・がんを見つける画像機器 奥山 康男(駒澤大学医療健康科学研究科 教授)  
・画像で見つける 吉川 宏起(駒澤大学医療健康科学研究科 教授)  
・手術で治す 佐野 圭二(帝京大学医学部外科学講座 教授)  
・薬で治す 古瀬 純司(杏林大学腫瘍内科学 教授)  
・放射線ですす 唐澤 久美子(東京女子医科大学放射線腫瘍学講座 教授)  
・痛みや辛さを和らげる 有賀 悦子(帝京大学医学部緩和医療学講座 教授)

●がんの予防策を知る 15:15~  
・タバコのおそろしさ、肥満のこわさ、運動の大切さ、がんと感染症  
飯岡 由紀子(東京女子医科大学看護学部成人看護学 教授)

●がん検診の大切さを知る 15:25~  
・がんを予防するワクチン 林 和彦(東京女子医科大学化学療法・緩和ケア科 教授)  
・お父さん、お母さんに教えてあげよう がん検診の大切さ  
中島 恵美子(杏林大学保健学部看護学科 教授)  
桑田 禮彰(駒澤大学 副学長)

クロージングリマーク 桑田 禮彰(駒澤大学 副学長)

【注 冊】  
**駒澤大学**  
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン  
「都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育」  
(東京女子医科大学・杏林大学・帝京大学・駒澤大学)

【後 援】世田谷区教育委員会 杉並区教育委員会  
【学術協力】公益財団法人 がん研究会有明病院  
| 病院 | 社会医療法人北斗 北斗病院  
【お問合せ】駒澤大学 教務部研究推進係  
TEL:03-3418-9125  
E-mail:ken-suishin@komazawa-u.ac.jp  
【アクセス】東急田園都市線「駒沢大学」駅下車  
徒歩約10分(駒沢公園口)出口

本年度の連携4大学合同シンポジウムは、“がんってどんな病気か知ってる?”をテーマとして平成27年12月20日(日)に駒澤大学の記念講堂で開催いたしました。

今回は我が国におけるがん検診受診率の低いことを背景に、小・中学生ならびにご家族の方々を対象にした分かりやすい“がん教育”を目標としました。開会と閉会時にはそれぞれ駒澤大学学長の廣瀬良弘と副学長の桑田禮彰が挨拶をさせていただきました。

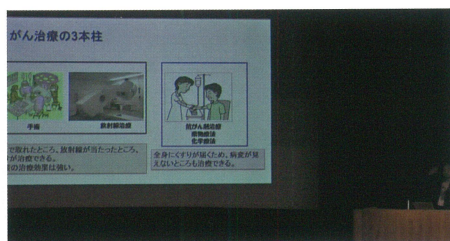
司会の江口研二先生、田中美恵子先生をはじめ連携4大学のメンバー総動員で、5~7分程度に短く区切った10講演とし、参加者の方が飽きないように工夫をいたしました。

シンポジウム全体を“がんって…なに?”、“がんの実態を知る”、“がんの予防策を知る”、“がん検診の大切さを知る”の4つの大項目に分けてそれぞれに小項目を設定しましたが、がんの予防から早期診断および検診の重要性、治療法の種類、緩和医療などを網羅する内容になりました。

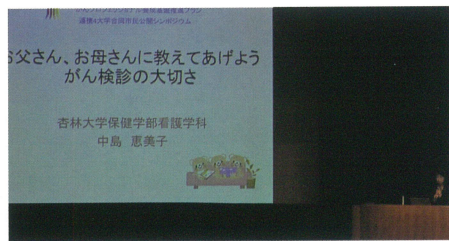
今回の参加者は67名のうち小学生が2名という結果となってしまいましたが、アンケート調査による評価はたいへん高く、小・中学生に対する“がん教育”の必要性が大きさを改めて実感させられました。また今回、文部科学省初等中等教育局の方や杉並区立の小・中学校の校長先生、教育担当者の方々にご参加いただいたことから、連携4大学の来年度に向けての1つの指針が示されていると確信しております。



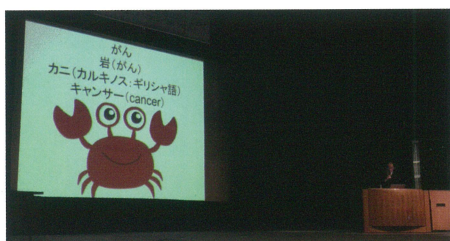
吉川宏起(駒澤大学 医療健康科学研究科 教授)



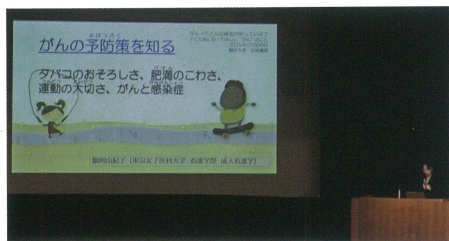
古瀬純司(杏林大学 腫瘍内科学 教授)



中島恵美子(杏林大学 保健学部看護学科 教授)



渡邊清高(帝京大学 医学部内科学講座(腫瘍内科) 准教授)



飯岡由紀子(東京女子医科大学 看護学部成人看護学 教授)



# 平成27年度 全国がんプロ合同フォーラムに参加して

東京女子医科大学 消化器外科 有泉 俊一

平成28年1月20日（水）筑波大学東京キャンパスにて全国がんプロ合同フォーラムが開催されました。テーマは『外科手術の安全性をいかに担保するか』です。

分野を問わず全国から多くの先生方が集まりました。教授陣から中堅の外科医、麻酔科医、薬剤師の先生などです。群馬大学や千葉大学の手術事故に対する取り組みに始まり、WHOが推奨する安全な手術のための10の目標、トヨタ自動車との“ASUISHI”プロジェクトなど普段聞くことのないテーマについて学ぶことができました。普段麻酔科医、担当医、看護師さんで行っている“Sign in”が患者取り違えの予防になること、WHOが推奨し皆で行う“Time out”が手術合併症や手術死亡を減らすこと。“確認”“連携”“報告”がいざという時役に立つこと。早速医局会で紹介させていただき、教授をはじめ医局の先生方、研修医、学生さんと勉強しました。ERのビデオもとても好評でした。手術で患者さんが喜んでいただけるように、手術後に苦しむ人が一人でも減るように、安全な手術を遂行いたします。医局をあげ、病院をあげ皆で協力し努力します。この度は貴重な勉強の機会をありがとうございました。

テーマ：  
**外科手術（特に高難度手術）の安全性をいかに担保するか**

プログラム

|             |   |                |
|-------------|---|----------------|
| 10:00～10:15 | 開会挨拶<br>全国がんプロ協議会会長（大阪大学大学院医学系研究科特任教授）<br>文部科学省高等教育局医学教育課 課長                  | 松浦 成昭<br>寺門 成真 |
| 10:15～10:35 | 講演<br>「本邦における外科手術の安全性 -NCDデータベースから見た現状-」<br>千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科 教授            | 松原 久裕          |
| 10:35～11:15 | 講演<br>「ハイリスク手術関連死亡事案をくり返さないための対応策」<br>群馬大学大学院医学研究科長/産婦人科学 教授<br>千葉県がんセンター 病院長 | 峯岸 敬<br>永田 松夫  |
| 11:15～11:30 | 事前アンケート結果報告<br>「ハイリスク手術に対する各施設における審査体制の現状」<br>筑波大学医学医療系消化器外科 講師               | 明石 義正          |
| 11:30～12:00 | 講演（1）<br>「外科手術に潜む医療事故のリスク」<br>名古屋大学医学部附属病院副病院長/医療の質・安全管理部 教授                  | 長尾 能雅          |
| 12:00～12:10 | 講評<br>全国がんプロ協議会顧問（東京大学医科学研究所医療イノベーション推進室）<br>がんプロフェッショナル養成推進委員会委員長            | 今井 浩三          |

|             |  |                |
|-------------|--|----------------|
| 12:10～16:55 | 特別企画（講演+グループワーク）<br>「外科手術の安全性を確保し、問題点をKAIZENしていくためにどうするか」<br>名古屋大学医学部附属病院副病院長/医療の質・安全管理部 教授<br>名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部 病院助教 | 長尾 能雅<br>寺井美峰子 |
| 12:10～12:50 | 昼食（ビデオ上映）  |                |
| 12:50～13:40 | グループディスカッション（部屋移動あり）<br>・それぞれの病院における安全確認方法<br>・どのような体制が求められるか<br>・どのようなチームトレーニングが求められるか                                    |                |
| 13:40～14:10 | 発表（134講義室）   |                |
| 14:10～14:30 | 講演（2）<br>「WHO安全な手術のためのガイドラインについて」<br>名古屋大学医学部附属病院副病院長/医療の質・安全管理部 教授  | 長尾 能雅          |
| 14:30～14:35 | 休憩   |                |
| 14:35～15:35 | ビデオ上映 + 講演（3）<br>「チームビルディングについて」<br>名古屋大学医学部附属病院副病院長/医療の質・安全管理部 教授   | 長尾 能雅          |
| 15:35～15:40 | 休憩   |                |
| 15:40～16:50 | 講演（4）<br>「トヨタの品質管理と“ASUISHI”プロジェクト」<br>トヨタ自動車株式会社業務品質改善部 主査  | 古谷 健夫          |
| 16:50～16:55 | まとめ<br>名古屋大学医学部附属病院副病院長/医療の質・安全管理部 教授  | 長尾 能雅          |
| 16:55～17:00 | 閉会挨拶<br>筑波大学医学医療系消化器外科 教授  | 大河内信弘          |



## 第三回外部評価委員会の報告

平成28年2月4日(木)に第三回外部評価委員会が開催されました。

これは、本事業について、外部有識者から客観的な評価を伺うものです。各大学より、昨年度開かれた外部評価委員会において指摘された問題点及び改善要望への対応報告、今年度における本事業の推進状況報告及び今後の計画について報告を行い、外部評価を受けました。

各大学の努力により評価は昨年度と比べ高評価となりました。

各委員からのコメントの一部を紹介します。

○ 本事業の目標は「都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育」である。他の癌プログラムにはない都心に住む患者のニーズに答える医療人をどのように育成するかをテーマとして掲げている。昨年度の活動報告で3大学病院でのアンケートは画期的な事業であると言える。この結果を踏まえ、患者のニーズに答える人材育成に役立てていただきたいと思う。

○ 「がん」という目標に対して、さらに一歩進んで「子供たち」への教育にも取り組んでいるところは、妥当というよりも文科省モデルの「お手本」であると思います。

○ 都市型がん医療連携を担う人材の育成といった難しいテーマであるが、各大学が都内にある特色を活かした連携による取り組みが行われていると思われる。医学物理士人材育成においては、女子医大と早稲田大が既に持つ連携基盤を活用した理工系の人材育成、また、駒沢大では医療技術系の人材育成の体制が構築されつつある。今後、ここに帝京大が加わることで、都内大学連携による理工・技術系の医学物理人材育成の基盤が構築されることを強く期待している。

○ 第二回外部評価委員会で提示された課題がほぼクリアされたことは評価される。



## 登録・問い合わせ先

|   |  |
|---|--|
|  <b>東京女子医科大学</b><br>がんプロ事務局<br>TEL 03-3357-4889<br>MAIL top-g4.bm@twmu.ac.jp                         |  <b>帝京大学</b><br>事務部 教務課 がんプロ担当<br>TEL 03-3964-1211(代表)(内線42122)<br>MAIL ganpro@med.teikyo-u.ac.jp |
|  <b>杏林大学</b><br>がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務局<br>TEL 0422-47-5512(内線3211)<br>MAIL ganpro@ks.kyorin-u.ac.jp |  <b>駒澤大学</b><br>教務部研究推進課研究推進係<br>TEL 03-3418-9125<br>MAIL ken-suishin@komazawa-u.ac.jp            |

 本事業の最新情報はホームページに掲載、「TOP-G4」で検索